

2016年11月6日

**「わたしを遣わして、貧しい人に良い知らせを伝えさせるために。」 イザヤ61:1**

バビロンからの帰還以来、苦勞続きで弱っている預言者を、主なる神は再任命され、彼も喜んでその使命を果します。

「主はわたしに油を注ぎ…」と預言者は主による再任命を確認します。与えられた使命は、弱っている民を慰め、「主が恵みをお与えになる年…を告知し…嘆きに代えて喜びの香油」を与え、彼らが枯れ木ではなく「正義の樫の木と呼ばれる」ようになると励ますことです。預言者は十分に出来なくても、主イエスが来て実現されます（→ルカ4:16-21）。

預言者は励まされて、民は「(長く放置された) 廢墟を建て直し」ますが、それと共に「他国の人々が…あなたたちのために羊を飼うなどの助けをしてきて、彼らは「主の祭司と呼ばれる」ようになり、「主の祝福を受けた一族」として尊敬されます(悪循環→好循環!)

民は、「主によって喜び楽しみ…恵みの晴れ着をまとわせ」てくださる主を賛美します(感謝→賛美)。今は埋もれて見えなくても、やがて主が「恵みと栄誉を芽生えさせてくださる」のを、信じて待つべきです(→Iコリント3:6)。

預言者自身が「貧しい人」であったので、そこから立ち上がった彼は、同じような苦しみを経験している民に「良い知らせ」を伝えられるのです(讚217番)。

2016年11月13日

**「主の口が定めた新しい名をもって、あなたは呼ばれるであろう。」 イザヤ62:2**

主から再任命されて元気になった預言者は、シオンの民に向かって、前向きになり明るくならう、と呼びかけます。

「シオンのために…決して口を閉ざさず…彼女の正しさが光と輝き」出るまで語ると決心した預言者は、かつて「捨てられた女」とか「荒廢」と呼ばれたその町が(→54:1-10)、「(夫に) 望まれるもの」(ヘフジバ)とか「夫を持つもの」(ベウラ)と呼ばれる(→文語訳聖書)ようになる、と語って励まします(→バンヤン『天国への旅』の「ベウラ」)。

彼は仲間呼びかけて、「城壁の上にわたしは見張りを置く」と言い、「穀物を敵の食物とはさせ」ないように見張ると共に、「主に思い起こしていただく」ために祈る役目を与えます。「預言者は働く者たちに祈るようにと勧めるのである。」(カルヴァン)

そして彼は、「城門を通れ…民の道を開け…石を取り除け」と、ユダヤ人に呼びかけると共に、「諸国の民に向かって旗を掲げ…彼らは聖なる民、主に贖われた民」と呼ばれて、世界中の人々がシオンに集まって来る光景を語るのです。

孤独で寂しい時を過ごした者たちに対して、主は「新しい名」を与えると約束されます(→復員兵の帰還!)。教会はその喜びに満ちた所です(讚194番)。

2016年11月20日（東城教会との交換講壇）

**「わたしの聖なる山においては何ものも害を加えず、滅ぼすこともない。」 イザヤ11:9**

エッセイの株から一つの芽が萌えてきました。私たちの主イエス・キリストです。主の上には知恵と識別の霊、思慮と勇氣（助言と力）の霊、主を知り、恐れ敬う霊がとどまり満たしていました。

彼は主を恐れる霊に満たされているがゆえに、その見るところ、聞くところは外面によらず、弱い人、貧しい人を弁護されます。

イエス様はその霊の力によって、人知れず多くの富をささげた女性や、人から嫌われていてもその心のうちに救われるための信仰のある人たちを見抜いて彼らに目をとめられました。

イエス様は、マタイ20章にてこの世の支配者たちは権力をふるって民を支配するが、あなた方の間ではそうであってはならないと語られました。

私たちも、主イエス様に注がれた霊によって、今私たちのうちに住まわれる霊に従って、見たり聞いたり、行動したりしたいと願います。

主の日が2000年前のクリスマスに到来し、私たちは主イエス・キリストの旗印の下に集められています。

「私の聖なる山においては」と語られる主の慈愛にあふれるあたたかな御国がこの地上にますます来たりますように！

知恵と識別の霊、助言の愛と力の霊、敬虔の霊によって進んで参りましょう。

（一森牧師の説教要旨）

2016年11月27日

**「どうか、天を裂いて降ってください。御前に山々が揺れ動くように。」 イザヤ63:19**

預言者は再び、復興に取り組むシオンの民を励まします。主は、苦しい現実の中にいる者のために必ず来られます。

正義を実現し（63:1-6）、恵みを与える主（63:7-14）ですが、「どうか、天から見下ろし…あなたの熱情と力強い御業」を示してください、と訴えます。「あなたはわたしたちの父」ですから、手遅れにならないうちに「立ち帰ってください」と、急いで欲しいのです。

モーセの時、「シナイ山は…山全体が激しく震えた」（出エジプト19:18）ように、主が「期待もしなかった恐るべき業と共に降」って欲しいのです。「喜んで正しいことを行い」と願いつつも罪を犯す民ですが、それでも「あなたを待つ者」に、「目が見もせず…人の心に思い浮かびもしなかった」（Iコリント2:9）救いを与えてくださる主です。

「わたしたちは皆…（人々に踏みつけられて）汚れた着物…枯れ葉」のようになって久しいのですが、それでも「わたしたちは粘土、あなたは陶工」なので、「あなたの民…に目を留めてください」と、主の憐みにすがります。

「天に閉じこもって、地上に関心を持たない神」ではないので（カルヴァン）、やがて「天が裂けて」（マルコ1:10）神の御子が降られます（→讃94番）。